

8期生へ教職大学院 専攻長からのお祝いのことば 菊池 紀彦

8期生のみなさん、修了おめでとうございます。2年間にわたり、それぞれの教育実践や課題意識に真摯に向き合い、理論と実践を往還しながら学びを積み重ねてこられたことに、専攻長として心より敬意を表します。教職大学院での学修は、知識や技術を身に付けるだけでなく、子どもを中心に据えて教育を問い直し、同僚と協働しながらよりよい実践を創り出す力を育む営みでもあります。ここで得た視点と経験は、これから直面する多様な教育課題に向き合ううえで、確かな支えになるはずで。修了はゴールではなく、新たな実践の出発点です。みなさんがそれぞれの現場で学び続ける姿勢を大切にしながら、子どもたちの成長と学校づくりに力を発揮されることを期待しています。今後のご活躍を心よりお祈りします。

「2年間でふりかえって～8期生が教職大学院で学んだこと～」

大澤 健人 さん	専門書や学術論文、過去の優れた名著や翻訳された教育書など、たくさんの本を読みました。さまざまな研究授業や研修、社会教育施設、諸外国の教育現場を訪問しました。同期の学生、教職大学院の先生方とともに学び、ふり返り、高めあうことができました。これから学校現場に戻り、子どもたちと出会い、この学びを返しながら成長していけることが楽しみです。本当にありがとうございました。
佐藤 雅貴 さん	「早く行きたいなら一人で行け、遠くに行きたいならみんなで行け」この言葉は、大学院で出会った仲間から教えてもらったものです。かつて一人で突き進んでいた私でしたが、仲間とともに立ち止まり、正解のない問いと向き合い続けたことで『遠くまで』歩むことができました。『みんなで行く』ことの力を教えてくれた8期のみなさん、この2年間で支えてくださったすべての人に感謝します。
小瀬古 圭慶 さん	院の先生から投げかけられた「自分の言葉で語らなきゃ」というフレーズが、ずっと心に残っています。同期の8期をはじめ、教職大学院での出会いは常に刺激的で、思わず語りたくなる学びに溢れていました。これからはこの学びを私自身の言葉にして、これから出会う方々と語りあい、新たな学びを追い求めていきたいです。この2年間で学び多きものにして頂いた全ての皆様に感謝いたします。
野村 美森 さん	大学院での2年間は本当にあつという間でしたが、先生方や同期のみんなにはさまざまな場面で何度も支えていただき、心から感謝しています。実習では、大学院に進まなければ出会えなかった学びや経験をたくさん得ることができ、自分の視野が大きく広がったと感じました。
萬賀 太一 さん	他大学出身の私にとって、この大学院で様々な仲間や先生方と巡り会えたことは、大変充実した2年間となりました。学校教育を多様な視点から学べたことや、実習先での経験は大きな財産です。中でも、院生室で仲間たちと語り合い、議論を交わした時間が、自分を最も成長させてくれたかけがえのないひとときだったと感じています。2年間、本当にありがとうございました。
石原 潤弥 さん	2年間、校種・教科の枠を超えて皆さんと授業を受け、議論する中で、教師としてどのような視点を持たなければならないのか、また、教師にはどのような学びの姿勢が求められているか、という点を学びました。数学には答えがありますが、教育には明確な答えがありません。状況によって最適解が変わることさえあるかもしれません。これからも現状に満足せず、常に仲間とともに学び続けたいと考えています。
勝村 奏太 さん	自分とは考えの異なる仲間と囲まれながらも、全員がそれぞれの気持ちに寄り添い、1つのテーマについて追究していく日々は私にとって大きな刺激であり、学びでした。こういった経験や日々の生活から、なりたい自分の姿というのがより明確になったと感じています。教師としても、人としても、多くのことを経験し、成長することができた2年間でした。ありがとうございました。
加藤 凜 さん	入学前は2年間やっていけるのかと不安でいっぱいでしたが、それは杞憂でした。困難に直面した際、親身に相談に乗ってくれた仲間や、温かく指導してくださった先生方との出会いにより、非常に充実した2年間を過ごすことができました。この大学院で得たかけがえのない絆を糧に、これからは教員として、ここで得た学びを教育現場にしっかりと還元していきたいと考えています。
川西 律照 さん	大学院での2年間はあつという間でした。様々な校種の実習を経験することで柔軟なもの見方ができるようになりました。また、先生方の丁寧なご指導のおかげで自分の考え方を広げ、自分を見つめ直すことができました。先生方、ゼミ、8期の仲間を支えられ、学んだ2年間で忘れず今後も精進していきます。2年間本当にありがとうございました。

佐々木 亮輔さん	三重大学教職大学院にて、数学教育学の研究及び教員としての資質向上に向けた研鑽を積んだ2年間でした。教育の楽しさや難しさ、奥深さを実感しました。多くの方々との出会いを通して、自らの指導観を見つめ直し、生徒の学びに本気で向き合う姿勢を深めることができました。得た知見と経験を糧に、今後も数学教育の発展に微力ながら貢献していきたいと思っております。2年間ありがとうございました！
笹田 誠人 さん	教職大学院での2年間は、思い通りにいかないことの連続でした。しかし、その中で仲間と話したり、試行錯誤する過程こそが、自分を大きく成長させてくれたと感じています。特に、目の前の子どもを深く理解しようとする姿勢や、志を同じくする院生同士で支え合い、高め合う対話の大切さに気づけたことは、私にとってかけがえのない財産となりました。この学びを糧に、現場でも誠実に歩み続けます。
柴原 大樹 さん	関数についての文献や先行研究と向き合う度に、自分の無知とその奥深さを痛感しました。2年間かかっても、未だにほんの一部しか理解できていません。しかし、そのわずかな理解によって教材の見え方が一変しました。教科書や指導要領の背後にある文脈に目を向けると、教材本来の豊かさが浮かび上がってきます。そして、それを味わう場を生徒と共に作るのが授業なのだと思えました。
末澤 孝浩 さん	「こんな会話が職場でもできたら。」同期やゼミ生との議論を終えるたびにそう思う。授業後や昼食時、コーヒーを片手に気づけば議論が始まる。なかまの学びの貪欲さに自分の甘さについていけない歯がゆさを何度も思い知らされた。でも、いつも全力で向き合ってくれる仲間の存在はありがたかった。ここで学んだ対話への向き合い方、ここで味わった対話の時間を現場でも大事にしていきたい。
鈴木 佑翼 さん	『誰と学ぶか』『必要とされる人になれているか』『誰に向けて書いているの?』私がハッとさせられる言葉でした。研究は私だけで成されたのではなく、関わる方々と共に作り上げられたものであって、必ず現場に還元する必要があるし、誰かに共感していただくなくてはなりません。研究活動を通して、自分だけで完結させてしまうという癖の強かった私が、誰かに届けたい、読んでほしいと思えるようになったことが大きな学びだと思います。
鈴木 雄大 さん	2年間、意欲の高い8期の皆さんと、授業内外のさまざまな場面で活発に議論を重ねることができました。その経験を通して、教員に求められる「学び続ける姿勢」を身につけることができたと感じています。来年度からは、得た学びを礎に、日々研鑽を重ねてまいります。
濱口 祐衣 さん	「教育のことはまだよくわからない」という不安なスタートでしたが、今ではこの道を選んで良かったと心から思っています。授業や放課後に院生の皆さんと教育について語り合った時間は私の視点を広げてくれました。また、県内の様々な学校で児童生徒たちと触れ合い、現場のリアルを肌で感じられたことも大きな自信になりました。この2年間で得た最高の仲間と学びを糧に、自分らしく頑張ります！
南本 創太 さん	この二年間の学びを振り返ると、新たな気づきが多く得られただけでなく、自身の実践を改めて捉え直す貴重な機会となりました。自らの至らなさや向き合うことは、時に辛く苦しい時間でもありましたが、それでも学びを深めることができたのは、共に学んだ8期の仲間や研究室の皆様の支えがあったからにほかなりません。修了にあたり、多くの方々から温かいご助力を賜りました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。
森本 直矢 さん	教職大学院では、議論の中でさまざまな意見に触れることが非常に多かったです。その中で、自身の考えを再構成する機会が増え、成長できたと感じます。共に学んだ8期生の方々には感謝申し上げます。
山本 健太 さん	教職大学院で修学に励んだ2年間は、課題と対峙する毎日でした。そんな中、研究の入口へと立つきっかけを下さったのは、先生方や8期の同期でした。講義や実習を重ねる中で抱いた疑問や問いが、一つの線で結ばれ「分かった」と思えたあの瞬間は、私にとって大切な財産です。今後も学びを更新することを忘れずに、音楽科授業実践を重ねていきたいと思っております。本当にありがとうございました。
吉井 佑太郎 さん	入学を決意したときの私は、私の問いへの「答え」を求めていました。「理論と実践の往還」三重大学教職大学院の理念です。同時にこの言葉は、入学にあたって、目指す姿として私が発した戦略的な言葉でした。2年間の、それはそれは豊かな学びを経て、この言葉は全く違って見えます。これから私の探究が始まります。ご指導いただいた先生方、ともに学んだ仲間への最大限の感謝の気持ちをここに。
吉見 朱日佳 さん	二年前の自分と今とで大きく変化したことは、もの見方や考え方の幅が広がり、様々な意見を肯定しつつ、批判的にも見れるようになったことです。このような自分になれたのは、先生方からご教授していただいたことや8期の方と沢山の意見や考えを共有してきたからだと思います。大好きな8期や先生方に出会えたことに深く感謝し、ここで学んだことを現場で実践していきたいと思っております。
谷口 真生 さん	実習をはじめとした多くの機会を通じて様々な「教育」の現場に触れ、また、先生方の講義や同期をはじめとした院生の皆さんとの交流の中で様々な理論や考え方・視点に出会えたこの二年間は、本当に貴重な時間でした。今後も学ぶ姿勢を忘れずに、「自分にできることは何か」と考え続けながら、少しでも子どもたちに還元できるよう、これからも精進していきます。本当にありがとうございました。

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院)入試・広報委員会

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 ✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学部・教育学研究科ホームページ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>